

## 第2回あわら市総合振興計画審議会会議録（要旨）

- 1 日 時 令和7年7月10日（木） 19:00~20:30
- 2 場 所 あわら市役所正庁
- 3 報告事項 （1）総合振興計画の概要について
- 4 協議事項 （1）市民アンケートの実施結果について  
（2）ワークショップの実施結果について  
（3）序論・基本構想の素案について
- 5 資 料 ・会議次第  
・総合振興計画の概要について（資料1）  
・市民アンケートの実施結果について（資料2）  
・ワークショップの実施結果について（資料3）  
・序論・基本構想の素案について（資料4）
- 6 出席者 委員：桑原美香（会長）、赤尾政治（副会長）、市野三郎、木元久、笹岡太久磨、坂野靖子、土田ゆり子、西森幸作、渡邊一幸、加藤秀信、東川継央、山形徳義、前田健二、宮川千乃、田嶋敏、宗石宗康、吉田 純一（顧問）  
（敬称略）  
  
市：渡邊清宏（創造戦略部長）、西正真琴（政策広報課長）、多賀太郎（政策広報課長補佐）、南 昇兵（政策広報課主査）  
委託業者：(株)ジャパンインターナショナル総合研究所 伊藤拓人
- 7 欠席者 笹原修之、坂井寿範、山口透、堂庭信男（敬称略）

## 8 会 議

### ・会長あいさつ(桑原会長)

前回会議が2月だったので、それから半年ほど経った。今回、アンケート調査、ワークショップの実施報告など、膨大な資料をいただいております、リアリティのある現状が見えてくると思う。そういったところからいろいろなご意見をいただければと思う。皆様が生活の中、仕事の中で感じていること、10年先の未来を考えながらお話しができればと思う。

### ・事務局より報告事項（1）「総合振興計画の概要について（資料1）」説明

(総合振興計画とは)

- ・市政運営の基本となる市の計画で、すべての「分野」における行政の「基本的な考え方」を示すもの。
- ・構造としては、
  - 10年間を通しての基本的な理念やまちづくりの基本的な方向性を示す「基本構想」
  - 基本的な施策を体系化して示し、各施策の方向性を示す前期5年、後期5年の「基本計画」
  - 具体的な事業計画となる「実施計画」の3層構造である。
- ・本審議会では、「基本構想」、「基本計画」の部分に関して議論を行っていただく。

(計画期間について)

第2次総合振興計画が令和7年度で終期を迎え、第3次総合振興計画の基本構想が令和17年度まで、前期基本計画が令和12年度までとなる。

(策定体制について)

市民アンケートやワークショップで寄せられた意見を庁内の専門部会で集約し、総合振興計画策定委員会(委員長:副市長、副委員長:教育長、委員:部長級職員)にて、総合計画や施策体系等の案を策定する。

市長への提案や市町から策定委員会への意見や指示等の過程を通し、具体的な総合振興計画案の作り込み作業を行う。

基本構想案、基本計画案などは、今後開催する本審議会において協議する。最終案は、本審議会に諮問され、それに対して答申、その後、市議会に提出され、議決を得る形になる。

#### ・事務局より協議事項(1)「市民アンケートの実施結果について(資料2)」説明

総合振興計画策定において、市民の意見を聴取するため、昨年度に市民アンケート及び小・中学生アンケートを実施した。

(市民アンケートについて)

調査対象者は、市内在住の18歳以上の方2,000人を無作為で抽出。調査期間は令和6年12月2日～令和7年1月6日。調査方法は、郵送配布、郵送回収またはWeb回答にて回答いただいた。配布した2,000件のうち、有効回収数は830件、回収率は41.5%で、結果は資料のとおりであった。

(小・中学生アンケートについて)

調査対象者は、小・中学校の在学学生、小学校については5、6年生を対象として実施した。調査期間は令和6年12月2日～令和6年12月31日。配布数は1,031件、有効回収数は875件、回収率は84.9%で、結果は資料のとおりであった。

・議題に係る質疑応答

(会長) 資料2について、ご質問・ご意見等はあるか。

(委員) 多岐に渡るアンケートの設問項目があるが、項目そのものはどのようにして選ばれたのか。第2次総合計画との関連があるのか。

(事務局) 今回のアンケートは、基本的に平成27年度に実施した総合戦略策定時に行ったアンケートの内容をベースに、推移を見る目的で作成した。

(委員) 前回のアンケートと比較することで、第2次総合計画で成果が上がったもの、上がらなかったものがあるのではないかと感じる。そういうことを説明すべきではないか。

(事務局) 計画期間の途中であり、第2次計画で行ってきた事業については、現在、集計作業を進めているところである。そういったものの中から各種課題を洗い出すことで、第2次計画の振り返りを行いたい。その中でアンケート結果につながる部分も出てくると思われ、第2次計画の総括の中で進捗具合や結果を振り返っていききたい。

(委員) 市民アンケートの回答者の年代や男女の比率と実際のあわら市の人口統計とで乖離があるのか教えてほしい。89ページの小・中学生アンケートの間6で、市に住み続けたい小学生が約68%いるにもかかわらず、中学生は約45%に減っている。その要因がわかれば教えてほしい。

(事務局) 回答割合と人口分布は、無作為抽出をする際に年代ごとの数に応じて配分しているが、若い世代の回答率は低いように感じている。そういった背景からも、小・中学生のアンケートを実施し、ワークショップには大学生にも参加いただいたが、高校生は定期的に参加できなかったため、金津高校と坂井高校の皆様にも現在アンケートを実施している。2点目の小学生に比べ中学生の定住意向が低かったことについては、アンケート結果から、若い人が求める交通や公園など、まちづくりに対して不足している部分があるのではないかと分析している。

(会長) 37ページで、重要度と満足度に関して4分割されていて、全体の値から年代別のクロス集計に入っているが、年代によって変わらないものと、年代によって大きく開きがある項目はあるか。

(事務局) 例えば、「観光の振興」は全体の傾向として満足度も重要度も平均値であるのに対し、若い世代については重要度が高いのに満足度は平均値にも達していない傾向であり、世代間のギャップがあると分析している。一方、「地域防災の強化」は、全体では右上の四角の一番上の左側、18～29歳の若い世代は満足度も重要度も高いという結果で共通する部分もある。世代によって、満足していないとか、重要度が違うところについては分析中である。

(委員) 38 ページの 18～29 歳のクロス集計を見ると、満足度平均値が 3.03 で、他の世代より高いが、何か意味があるのか。

(事務局) アンケートの母数の話になると思うが、若い人の回答数自体が少ない傾向にあるので、少しだけそのずれが生じているのではないかと分析している。

・ **協議事項の承認**

→ 異議なし、承認。

・ **事務局より協議事項（２）「ワークショップの実施結果について（資料３）」説明**

(ワークショップの実施概要)

1 回目を 4 月 12 日（土）、2 回目を 5 月 12 日（土）、3 回目を 5 月 24 日（土）の全 3 回実施。基本的に 3 回とも同一の参加者で実施し、それぞれ 30 名弱程度の方に参加いただいた。

前回、高校生、大学生、特に市外への転出が多い若い女性の意見を聞いたほうが良いとの意見をいただいた。高校生については、ワークショップの参加募集期間が春休み期間であったことから参加はなかったが、大学生については、女性 6 名に参加いただいた。

さまざまな職業の方、大学生、市の若手職員にも参加いただき、性別や年代も幅広くいろいろな立場の方に参加いただけたと考えている。あわら市外在住の方も 3 名に参加いただいた。

(実施内容)

1 回目：「あわら市の好きなところ、変えたいところ」というテーマを設定し、参加者がテーマに基づいて自由に意見を出し合うワールドカフェ方式を採用した。28 名の参加者に 3 グループに分かれていただき、途中でグループの入れ替えを行った。話し合い後は「ミライ提案シート」で、自分の未来の姿とあわら市の魅力や課題について意見を上げていただいた。その内容は資料 2～7 ページに掲載している。あわら市の魅力として、親切な人が多い、ゆったりと過ごしやすい、自然が豊かという内容の意見が多かった。課題としては、交通手段やインフラの整備、情報発信、他自治体との連携、産官学との連携が弱いという内容の意見が多かった。

2 回目：「目指したい未来のあわら市とその実現のために必要なこと」というテーマを設定し、5 つの分野に分かれて KJ 法という方法で話し合ってもらい、グループごとに意見の取りまとめを行っていただいた。その内容は 8～12 ページに掲載している。

1班（産業、仕事、観光）：観光の分野では、市にお金を落としてもらう仕掛けが必要。仕事に関しては、多様な働ける場所や居住環境が必要。情報に関しては、外の人だけでなく、住民が魅力を再発見できることが重要。

2班（生活環境・安全、環境・都市基盤）：自然環境を自分たちで守っていくことが重要。スタバ、マックなど、人が集まれる場所が必要。防災・防犯に関しては、行政側の体制だけでなく、住民への意識づけが重要。

3班（福祉・保健・医療）：子育てに関して、親が相談できる場所、子どもの学ぶ場所、遊べる場所の確保。健康づくりに関して、居場所づくりやスポーツイベントの開催。子育て、高齢者、障害者分野すべてにかかる複合的な施設が必要。

4班（教育・文化・スポーツ）：創作の森美術館や蓮如、カヌーポロなど、あわら市の文化の情報発信。学校教育分野に関しては、教員の多忙化の解消、人材育成など。

5班（共生、協働・コミュニティ）：共生、人権に関して、男女共同や外国人との共生など、多様性を受け入れるために交流イベントが必要。企業や地域、行政の連携が重要。若者も含めて人の居場所となれる地域コミュニティが必要。

3回目：「まちづくりのアイデアの具体化」というテーマで、2回目と同一のグループで、2回目に議論いただいた「目指したい未来のあわら市とその実現のために必要なこと」について、具体的な取組を考えていただき、最後に発表していただいた。その内容は13～18ページに掲載している。

#### 1班（産業、仕事、観光）

“誰か” じゃなくて “私” がつくる自慢のまち あわら

- ・「あわら知」プロジェクト：温泉しかない、住民が知らないという課題解決のため、地元行事などと観光客の交流イベント等でPRを行う。
- ・「できるかもラボ」プロジェクト：若者をはじめ市民がチャレンジできるきっかけづくりとして、屋台村など既存の施設を活用しながら挑戦できる空気感を醸成する。
- ・「温泉部」プロジェクト：温泉の魅力を感じてもらう取組。

#### 2班（生活環境・安全、環境・都市基盤）

これぞ住みたくなる！！ ～ねむらない街AWARA～

- ・アワランドプロジェクト：自然活動を守る団体のメンバーの減少を解消するため、報酬などのイニシアティブや大学生との連携等。
- ・観光客も市民も一緒 愛 Land：夜間の移動手段がないという課題に対し、将来的に市民も観光客も利用できるような夜間移動可能な公共交通機関があればいいとの意見。

#### 3班（福祉・保健・医療）

地域と共に自分らしく生活できる街あわら

- ・ 2回目に上がった分野ごとの課題や魅力に基づき、子育てを含む福祉分野全体を網羅できるような取組を行っていくことが大事。
- ・ 例えば、障害者への偏見や地域からの孤立という課題を解消するため、理解を促進する教育プロジェクトが大人、子ども両方にあるとよい。
- ・ 人が集まれる居場所が必要だが、過干渉にならないように注意する必要がある。

#### 4班（教育・文化・スポーツ）

つながりあって学べるまち ～あわら学～

- ・ 地域愛プロジェクト：子どもの地域愛を醸成し、人口流出を防ぐためにふるさと教育を教育現場で充実させたい。
- ・ 大人も学び続けられる環境プロジェクト：市内で開催されるワークショップの情報発信強化。大人も多様に学び続けられるように内容の充実を図るべき。

#### 5班（共生、協働・コミュニティ）

住みたくなる 住みつつけたくなる 日本一やさしいまち あわら

- ・ 住む・働くプロジェクト：若者に市内に住んでもらうため、異業種交流会や見学会の実施が必要。
- ・ とにかく集まるプロジェクト：市民が気軽に集まれる場所がないという課題を解消するため、各地域の公共施設の開放、利用促進、つながりを促進するイベント開催が必要。
- ・ なんでも情報発信プロジェクト：市内外の人を問わず、高齢者にもわかりやすい情報発信の充実が必要。
- ・ 男女共同参画分野で、女性、若者のニーズを適切に把握すること、男女共同参画を推進するための制度化など。

(会長) 資料3について、ご質問、ご意見はあるか。学生が参加したことで議論が進んだのではないか。また若い方が具体的にどうしたらいいかということまで考えてあり、こうした参加者がもっと増えればよいと思う。外国人就労者などの参加も増えて多様な意見がいただければよいと思う。

#### ・ 協議事項の承認

→ 異議なし、承認。

#### ・ 事務局より協議事項（3）「序論・基本構想の素案について（資料4）」説明

(序論について)

策定の背景、計画の構成、社会潮流やあわら市の現状などを伝える計画の導入部分であり、後期基本計画策定の際にも計画に掲載するが、市議会での議決は不要な部分である。

(基本構想について)

基本構想については、最上位の10年間の計画となる。あわら市が今後10年間でどのようなまちを目指していくのかについて、全体的な基本理念を掲げ、それに続く大きな分野ごとの体系についての考え方を示すもので、市議会での議決が必要となっている。

(素案の内容について)

序論

P2、策定の背景、計画の役割・特徴、まちづくりの最上位計画であること、市民参加による策定が重要であること、計画策定後の成果実効性を重視した計画である等が記載されている。

P3、計画の構成や期間。

P4～5、社会の潮流について8項目の全国的なトレンドを掲載。

P6、あわら市の現況として、3区分別人口の推移、高齢化率、人口推計を掲載。

P7、世帯数の推移、県、全国との比較。

P8、社会増減、自然増減をグラフで表した人口動態。流入・流出人口により昼間人口を分析。

P9、外国人人口。産業別の就業人口。

P10～11、市民アンケートと市民ワークショップの結果。内容は今後調整。

P12、まちづくりの課題として、人口減少、人口構造の変化への対応とまちの未来を担う人の育成、持続可能な地域づくりの3項目を掲載。

人口推移等の数値は今後変更の可能性あり。

基本構想

P14、あわら市が今後10年間で目指していく方向性として、「明日への挑戦 未来を切りひらくまち ～ずっと住み続けたい あわらを目指して～」という基本理念を設定している。

P15、基本理念の達成に向け、5つの政策の柱を設定し、P16以降で各政策の柱について説明。この内容については、さらに庁内で議論していく。

基本理念については、ワークショップでのテーマを参考にしており、本日、この基本理念についてご意見を伺いたい。

#### ・議題に係る質疑応答

(会長) 総合振興計画では、出来上がりの中のストーリーが重要であると思う。今回の案では、内容の一つ一つが分断されている印象がある。特に第2章の第1節では外的要因の話が書いてあり、第2節ではあわらの中の内的要因が書いてあるが、データとして偏りがある。第1節と第2節でSWOT分析ができるとよい。6ページの内的要因であわら市の強みと弱みが上げられ、4ページで外的要因として、国際情勢の不確実性など外的な脅威とネット社会やウェルビーイングなど追い風になるものを組み合わせ、かつ、市民の意見も組み合わせることで、12ページのまちづくりの課題として、追い風が吹いているようなものをもっと頑張っていくのか。弱みの部分に対して守りの戦略をしていくのか。これらは4分割できるので、4つの戦略が生まれるはずである。そこで作ったものが、最終的に15ページの基本目標で4つの柱になるという形にすればストーリーがつながっていくと思う。この辺りの調整が必要ではないか。その他のことで、ご意見はないか。

(委員) 合併した 2004 年は 3 万人を超えていたが、2020 年の統計では 2 万 7 千人で 3 千人強減っている。このままいくと 2060 年にはよくて 2 万人くらい、悪くて 1 万 4 千人くらいと書いてある。あわら市を維持するためにも人が減っていくことをどうするのが最重要課題だと思う。それがあってこそそのまちづくりやコミュニティだと思う。第 3 次計画となるが、第 1 次、第 2 次の計画を実行してきても人口が減ってきたとか、他の自治体よりも人口減少が抑えられたとか、第 1 次・第 2 次計画の結果がどうだったのかも示してほしい。

(事務局) 人口減少、人口問題はあわら市にとって重要なことと考えている。第 1 次から第 2 次の人口対策も含めて、この場では回答ができないので、宿題とさせていただきたい。

(委員) 神奈川の横須賀から来たが、既に住み続けたいあわら市になっている。地域に入ってみて、親御さんが福井・あわらを好きだと、福井に残る率、Uターン率が高いのがわかる。縁があってあわらで生まれ育って、残ってくれるか、戻ってくれるかが重要だと思うが、金津高校と連携があると思うので、戻ってくる率のデータなどがあれば教えてほしい

(事務局) 高校生のアンケート結果については集計途中だが、現段階では、金津高校の生徒 429 名に回答いただいている中で定住意向が 43.1%と、中学生の回答とかなり近い。

(会長) 資料 2 の 12～13 ページのところ、I ターン、U ターンの率が出ていて、あわら市に転入してきて「良かったと思う」が 3 割くらいという結果である。

(事務局) 総合振興計画とは別の枠組みの人口減少対策チームで検討を進めており、令和 6 年度では、若年女性の転出率が県内でもかなり高い現状である。シビックプライド、あわら市が好きという気持ちを育てていくことが重要だと考えている。全国的な数値だが、コロナ禍以降、地元に戻りたい、地元で就職したいという大学生が 52%程度で、その方たちの属性を見ると、地元が好きとか、親や友だちと仲がいいという状況が見られる。あわら市が取り組んでいくべきところは、親世代も含めて、あわら市が好きとか、あわら市に住んでよかったと思ってくれる人を増やしていくことが非常に重要と考えている。具体的な策はこの場でお示しできないが、総合振興計画についても、そういった点も踏まえた内容にしていきたい。

(会長) 細かい項目、文言でもよい。14 ページの基本理念についてはいかがか。

(委員) 基本理念のところに「歴史ある温泉」とあるが、あわらの温泉は明治からなので、それを歴史あると言っているのかと気になる。また、今回の総合振興計画と第 2 次計画との関連性はどうなるのか。第 2 次では環境や健康という分類だったが、そういうものはなくなって新たに作るのか。

(事務局) 第 2 次計画とのつながりについてご質問をいただいた。今、第 2 次計画について振り

返り作業を行っており、併せて毎年度の行政評価の手続きの中で計画の進み具合について作業を行っている。庁内から出ている課題として、現計画の体系が庁内の予算の仕組みと連動できていないという実情があり、今後の基本計画の作り込みや行政評価の作業を見据えた計画づくりをしている。その中で、現計画の体系では伝わりづらい部分があるという反省がある。今回、よりわかりやすい体系にしていきたいということで、こういった体系に調整させていただいた。

(会長) 芦原町のときから絡んできて、5年、10年たつと新しいものができるが、基本的には同じものが続いてもいいのではないかと。長年の経年を見て成果が出ていくと思う。5年ごと、10年ごとに作っているが、毎回、関連性が全くない。きちんとしたデータに基づいた形でまちづくりや事業を修復していく必要があるのではないかと。第2次で不備があるかもしれないが、それを基盤にして第3次を作るといった姿勢があってもいいのではないかと。第2次の成果がどうなっているのかを聞きたかった。

(事務局) 長いスパンで1つの指針に向かって行政の運営を行っていくことが重要と考えており、そういう中でつながりが出て、継続性が担保できるということをご指摘のとおりである。一方で社会情勢の変動が激しく、前提となる社会インフラや人のモラルについても変わってきており、時代に合った計画を策定したいという気持ちもある。長期での視点やつながりの確保についても考慮していく必要があるが、なるべく時代に沿った、今の課題を反映したような計画にしていきたいと考えている。

(委員) 今は変化が激しく、都度、改定していくのは大切だが、進捗状況、過程や環境の変化が見えるようにしてほしい。資料4の3ページ、人口減少は日本全国の問題で、減らさないようにする施策も考えるが、2035年にはこれくらいの人口だという仮定のもとに、どういう環境、どういう市をつくっていくかを考えることが必要である。人口構成を見てまちづくりを考えていくべきと思うが、第3次には人口の見通しが入っていない。

(事務局) 将来の人口がどうなっていくのか、6ページでは社人研（国立社会保障・人口問題研究所）の推計を用いて算定したものをいったん記載している。それに対して、各種施策を実施した上で、あわら市の人口をどうしていくかについては、計画の中で何らかの形で示していく必要があり、今後の審議の中で将来的な人口の展望を表現していきたいと考えている。

(委員) 基本構想のところで「挑戦」という言葉を入れたのは意欲的でよい。これから4つの挑戦について具体的に考えてもらえると思うが、それぞれ挑戦的な目標を立てていただきたい。施策の柱5の行財政のところで、第1次、第2次の振興計画があつて、それに基づいて行っていただくのは当然だが、安易な前例踏襲はなくしていかないといけない。これだけ社会情勢が目まぐるしく変化する時代なので、行政として迅速な意思決定が非常に大事な部分になると思う。それこそが健全な行財政運営だと思うので、その辺を加味してまとめていただければと思う。

- ・ **協議事項の承認**

→全体の構成などについては異議なし、承認。ご意見いただいた内容を踏まえて序論、基本構想の修正を行う。

(会長) 序論、基本構想については庁内でも議論して修正されると思うが、皆様の意見も反映させながらバージョンアップしたものを作っていくということで大まかな方向性は承認いただいた。全体を通じて、何かご意見はあるか。すべての協議事項が終了したので進行をお返しする。

- ・ **その他連絡事項など**

事務局から報酬の振込の案内

第3回審議会は9月2日(火)19:00。次回を含めて3回。11月から12月に予定しているパブリックコメントの前に第4回を開催予定。

(20:30 閉会)